酒々井町郷土研究会々報
第49号
昭和63年7月1日
発行
酒々井町郷土研究会
編集部

千葉氏滅亡のあと

沖田 善三郎

天正十八年、千葉氏滅亡のあと、その支族家臣の多くは土着帰農したが、徳川氏等に仕官をしていった人達もいた。

飯積区の清宮屋敷跡は、清宮氏が主家滅亡のあと、松崎（成田市）に田畑山林を求め移住した跡だという。徳川氏が天正十九年、酒々井町を初めて取立てた事を記す「天和の書上げ」といわれる文書に「……酒々井町篠田大隅其外年寄共江……」とある篠田大隅は、「篠田大隅守書状」（『県資料集』中世篇）に差出地下総作倉（現酒々井町）よりとあり旧千葉氏家臣であった人と同一人と思われる。又、旧家臣であった海宝三吉は、徳川氏の旗本となり、領地の寺台（成田市）に居ったが、乱暴な行いが多かったため、家康の命で酒々井の人篠田勘七が寺台橋で待ち伏せ槍で突き倒したという（『佐倉風土記』）。この篠田勘七なる人も前記の篠田大隅かその縁故者と思われる。

結束の紫さめし
思ひかな
虚子

旧家臣が同じ旧家臣を討たされた事になる。千葉氏の頃、野馬の管理者であった人達が、徳川氏になっても引続き同じ職に任用されたが、その一人の青柳氏は慶長の頃、旧主千葉氏の落魄見るに忍びざる境遇にあるのに、自分の栄達のため二君に仕えるは不忠であると、職を辞し他にゆずったという。千葉氏の隠居城という鷺山城（成田市下方）に妙見祠があり、その妙見像の台座に次のような事が記されている。

梅光佛師　兵庫
千葉代々本尊也
祈願成就　大野良重
　　住小林村
下総国印旛郡公津村
　　鵜沢氏
古村恩王師ノ守本尊タリ
寛平5三拾七代
良胤　住石井氏
喜階朝臣　大野良重
梅光
元禄拾四才庚己九月十八日
竜角寺　大野氏
　　村　岩井氏
　　公津　鵜沢氏

年号の干支が合わないが、元禄十四年は、千葉氏滅亡から一一〇年後である。ここに記されている鵜沢氏に就いては、「原胤栄文書」（『旭市史』）に、鋳物師大工職之事、領中不可有異議者也、仍證状如件

天正十一年九月十四　胤栄（押花）
鵜沢刑部少輔殿

とある鵜沢氏とのつながりが考えられる。飯仲（成田市）の住吉神社の棟札にも大工棟梁鵜沢氏の名前があった。所願成就とは妙見祠を城跡に再建し得た事か、千葉氏滅亡後、良胤はこれら家臣達に扶助されていたのだろう。三十七代良胤とあるが千葉大系図にはない。『佐倉風土記』では鷺山城主で邦胤の兄とあり、一時千葉家をついだものか。『香取郡誌』に千葉氏館址として「米沢村（神崎町）字登城に在り、今畠地及山林たり、里人呼んで千葉殿屋敷と称す。千葉氏の末に当り、胤富の長子良胤は多病なるを以て佐倉城（酒々井町）を其弟邦胤に譲り城下公津の地に老す。後ち小田原の役あり、邦胤の子重胤は亡後江戸に客死し、良胤の子孫は尚ほ佐倉（酒々井町）に居りしが徳川氏の政権を握りし後ち知胤なるものに至り武田（神崎町）に移り住す。千葉氏旧臣の裔印旛郡宝田（成田市）其他に居りしもの皆窃かに臣礼を執り佐倉城主堀田氏も亦待つに客礼を以てせりと、其裔後ち江戸に至りしも遂に顕はれずと云」又「墳墓は武田高源院後岡上松林中に在り」と記している。酒々井町では幕政の初め頃は千葉氏の遺臣として門地を論じ武を好みと……『印旛郡誌』はその気風を記している。

本佐倉城跡の課題

加川　治良

来年は、町制百年の沢山の行事のなかで本佐倉城跡の保存が大きな課題になりました。保存がやっと軌道に乗ったようです。

本佐倉城については、『町史』の中世編他か文化財関係の項に紹介されていますので省略しますが、千葉氏の最後の居城であったこと、中世城跡として完全な形で残っていることが、珍しいと言われています。保存のために長く努力された保存会の皆さんや町当局の支援が有ったからですが、なお多くの課題が有るようです。

本佐倉城の築城が、千葉輔胤の文明年代として重胤の天正年代までの百年に渉る時代の変化のなかで、鉄砲の伝来による戦闘様式の変化にどう対応したのでしょうか。現在、本佐倉城跡の実測図（『しすいの文化財』昭和四十八年三月発行）には、外部の土塁構造が見られます。現在は、佐倉市に編入されて一部消失しましたが、そこに「横矢かがり」が見られます。これは鉄砲による攻防のための土塁の形です。本佐倉城は、中世の古城でもあり、鉄砲の伝来によって変化した近世の築城様式も見られます。

また、関連した課題として「中台郷検地帳」天正十九年九月（『町史資料集一』）には天正十八年五月に本佐倉城が落城したとあると『酒々井町史』通史編に書かれています。落城後の悲劇が見られるようです。検地帳の記載のなかで「まきすて不作」と言う記録が異状に多いことに気付きます。例えば長門分として下畑二歩、三七拾四歩、壱七弐拾四歩、他が記載され、下々畑五七歩が主作として大きく耕作地が縮小しています。「まきすて不作」と言うのはなんでしょうか？　言葉どおりでかんがえれば種まきして取り入れないと言うことでしょうか？　長門と言うのは名前からみて一般農民とは違う耕作者のようです。また「永不作」も多く見られます。このような落城後の農民の変化はなんだろう。町制百年の輝かしい行事のなかで、本佐倉城跡についての研究が諸先生方に依ってさらに深められるだろうと思います。

三人地蔵由来記

川嶋　重利

下岩橋長者谷津台に三体の地蔵尊が赤い帽子を被り、お揃いの赤い着物を着て、かたり合うように立っている。右より日向サツキ、日向久治、日向実と名が刻まれ行年十歳、八歳、六歳位と言われている。建立月日は大正十五年四月で、この地蔵の建立には当時の村人達の悲哀と温情がこめられている。

大正十四年（一九二五年）初冬、穏やかな村に起きた悲しく痛ましい出来事であった。当時京成電鉄が、上野成田間の開通最後の工事をしていた宗吾隧道掘削工事現場の東の山奥で、子供の悲痛な叫び声がこだましていたがぷっつり途絶えた。同じ日、旧国鉄酒々井隧道の中で男女の飛込み自殺があった。その女性は自殺直前、村人に三人の小児の絞殺を告げたため、急遽山狩りが行われ、夕暮れの山中で哀れな三児の並べられた遺体が発見された。自殺した男性は子らの父親、女性はその家の女中であり子らを伴い家出中であった。思わぬ出来事に大仏頂寺住職三好照嘉氏や村人達は遺体を手厚く葬り、念仏講中は喜捨を集めて、哀れな三児のため三地蔵を建て、霊を供養して現在に至っている。当時の暗い社会的背景の中で起きた一つの悲劇であった。

時は移り昭和四十三年八月の暑い或る日、大仏頂寺で盂蘭盆会の施餓鬼法要が行われていた時、老女と中年女性が庫裡を訪れた。彼女達は供養された三児の実母と実妹と告げ、四十五年前、実母は実妹を身ごもりながら離縁され、その後に起きた哀れな出来事に涙するばかりだった。住職に案内され三地蔵を草むらに見るや身をふるわし泣き伏した。昔を今に甦える地獄絵を見る思いであったのだろう。その後、実妹は毎年施餓鬼法要に来て村人の温情に感謝し供養を続けている。

三人地蔵は昭和六十三年になって、地主の河島重雄氏が建物、仏像の修理をされ、現在も丁寧に回向されている。この地蔵は、子供の扁桃腺炎には殊に御利益があると信仰されている。

県内見学会に参加して

下岩橋　宮内　幸江

四月二十六日B班に参加させて戴きました。前日まで天気が悪かったが、よい天気にめぐまれ、中央公民館に行くと、もう役員の方々が胸につける名札を準備して待ってくださいました。今日の参加者は、三十二名でした。これから計画に従って出発です。

はじめに東光院、大きな新しい建物で、明るく立派で近代的な感じでした。七仏薬師とも呼ばれ前立不動尊と大日如来があって、霊顕あらたかな尊いお寺だそうです。次は重俊院、生実藩主森川家累代の廟所で、四十六基の墓石がこけむして、昔の生活がよみ返ってくる思いがいたしました。次に飯香岡八幡宮につきました。市原市の町の中程にあって、この神社には、大きな夫婦銀杏の木があり、根本はこけむしていて、この神社の古さを教えてくれているようでした。拝殿は県指定で、奥殿は重文だそうです。なんとも言えない神々しさがあり又昔を思い出されました。

次に山口地区の木造地蔵菩薩坐像でした。立派な坐像で二、七五メートルもあり金箔一大きく、金ぱくをぬってあったらしく本当に珍しい文化財だそうです。不思議でなりないことは、これほど立派な仏像がなぜこんな田舎にあるのか、誰がこれを祀ったのか、その当時この村はどんなだったでしょうか、誰かに聞きたいような気持でいっぱいでした。

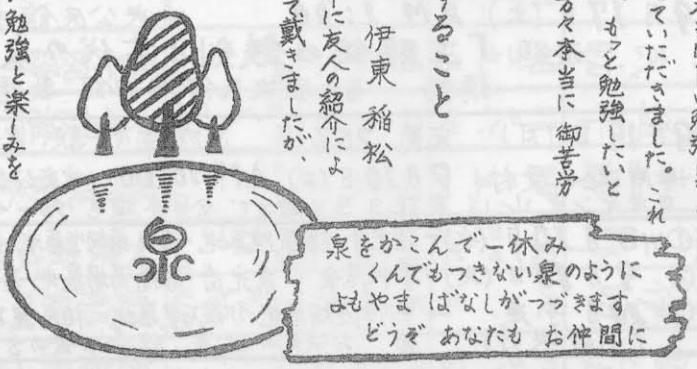
最後に高滝神社を見学しました。こんな見学会は郷土研でなければ味わうことができないことでしょう。私をはじめ会員のみなさんも本当に良い勉強になり、楽しい一日を過ごさせていただきました。これからも参加させて戴き、もっと勉強したいと思います。役員の方々本当に御苦労さまでした。

郷土を愛すること

伊東　稲松

私は昭和五十五年に友人の紹介により郷土研究会に入れて戴きましたが、所謂ペーパー会員で行事への参加はなく、唯会報を読むのみで誠に不勉強会員でした。しかし会報は、毎回読み漁り、よい勉強と楽しみを頂戴いたしました。今でも全部保管してあります。今は立派な紙に綺麗にプリントしてありますが、その頃は紙の質も悪く、さぞ苦労して印刷せられたことと偲ばれます。

私が先ず引き付けられたのは、その体裁にかかわらず内容の格調の高さでした。相京さん、沖田さん、会田さんその他の皆様のお勉強には誠に敬服の至りです。私にとり珍しいお話を読ませて戴き心から感謝しております。



此の頃は、皆様と和気藹々の内に勉強傍らの小旅行も計画され、私共も二回程お世話になりましたが、此の様な催しもお世話役の方々の一方ならぬお骨折のお陰と深くお礼申し述べます。

元来私共は自分達の祖先の文化遺物を通じて、私共が如何にあるべきかを考え、又子孫のために如何に努力すべきかということ、言い換えれば私共の歴史に対する認識をより拡げることが非常に大事なことと存じます。此の点からも郷土研究会が益々発展されることを祈ります。

私共夫婦は当地に二十一年前に私の病気療養のために転地して参りました。環境のよさ（良い水、旨い家庭菜園、美しい森林浴）のお陰ですっかり回復致しましたが、その森林浴の中で珍しい樹木に恵まれました。それは植物図鑑にも載っている「からたねおがたま」と言う常緑樹で、丈は約五メートル、幹の直径三十糎位で、五月初め頃より六月十日頃迄、葉の付根に小指の一節位の花が無数につき、半開して四、五日は芳香を放ち、全開すると潔くハラハラと散ります。熟れたバナナの様な南方果実特有な香りがします。

此の樹は中国の広州方面の銘木で名は「含笑」広州音でハムシュと呼びます。此の木は挿木よりも接木が適当で、今までも数多く知人に分けて喜ばれています。御希望の方には差し上げますのでお申出下さい。

古希台を戴き私事をつけ加えました。

郷土研日誌

月日	内容	参加人数
4月9日	古今佐倉・真佐子（現地学習）	18名
〃 10日	石仏民俗調査	6名
〃 17日	文化財愛護 上岩橋貝塚・カシマ口横穴 古墳・伊篠松並木の写真撮影	43名
〃 19日	山菜を食べる会 準備	10名
〃 20日	山菜を食べる会	61名
〃 22日	県内見学会（千葉・市原方面）A班	34名
26日	〃（〃）B班	32名
5月14日	古今佐倉・真佐子	14名
〃 15日	石仏民俗調査	9名
〃 17日	佐倉街道を歩く（6）	13名
6月5日	町内史跡めぐり（印旛院・本佐倉城跡）	16名
〃 7日	旅行小委員会	7名
〃 10日	役員会	18名
〃 11日	古今佐倉・真佐子	15名
〃 19日	石仏民俗調査	5名

名勝探訪

佐倉街道を歩く（7）・（8）

7/5（火）　9/8（木）（雨天中止）

（7）＝前回は、お江戸日本橋から二番目の一里塚、日光、水戸街道佐倉道の第一の宿場千住のあれこれを見て日光街道と別れました。

今回はその続きです。まず京成酒々井から京成関屋まで、東武線に百円で乗り替えて小菅で下車、伊奈屋敷小菅御殿、現小菅刑務所から綾瀬川にかかる水戸橋を渡って人家はここまで、それから先は田圃道でした。そこで幸いJR綾瀬駅が出来たのでここから電車にのり次の村落亀有まで行きます。歩いて中川橋をわたり新宿に入ります。新宿からは柴又の帝釈天様はすぐです。それとも、バスを利用して水元公園まで行くか時間の都合でその時点で決めましょう。

（8）＝京成酒々井から高砂まで行きます。前回（7）歩いた地点まで行って小岩の関所まで、その間、前回行かなかった柴又か水元へ行ってみましょう。関所を越え江戸川を渡れば千葉県に入りますが、今回は川の手前で終りです。

第49号（No.4）　酒々井町郷土研究会々報　昭和63年7月1日（金）

郷土研 行事案内

S 63年 7月 ～ 9月

	7月	8月	9月
史談会	9日(土) P.M 1:30 中央公民館 古今佐倉真佐子を読む会	休み	10日(土) P.M 1:30 中央公民館 古今佐倉真佐子を読む会
石仏民俗調査	10日(日) A.M 9:00 集合 中央公民館（雨天中止）	休み	11日(日) A.M 9:00 集合 中央公民館（雨天中止）
名勝探訪	5日(火) 佐倉街道を歩く(7) 集合場所－京成酒々井駅－A.M 8:00（雨天中止） コース 京成関屋－小菅－伊那屋敷－小菅刑務所－亀有－新宿（にいじゅく）－柴又または水元	休み	8日(木) 佐倉街道を歩く(8) 集合場所－京成酒々井駅－A.M 8:00（雨天中止） コース 高砂－水元または柴又－小岩関所
文化財愛護	7月17日(日) A.M 7:00 現地集合 ── 上岩橋貝層・カンカン山横穴古墳（草刈り清掃） A.M 9:00 〃 ── 伊篠松並木（草刈り清掃） （雨天中止） 代替日 7月31日(日) に実施します。 かま・くまでを持参して下さい。		
県内見学会	7月20日(水) A班 定員35名 〃 22日(金) B班 〃 申し込み受付－7月7日(木) A.M 10:00 〃 場所－中央公民館ロビー 会費 ¥1.000円 小見川・東庄方面 A.M 8:30 中央公民館出発 小見川善光寺（初代松本幸四郎墓）－佐藤尚中の生誕地 ── 東庄県民の森（昼食）－福聚寺 ── 竜福寺 ── 大六天 ── 山倉大神 ── 酒々井 キャンセル－実施日 会田香雄宅 .361		
郷土史講座	9月17日(土) P.M 1:00 中央公民館視聴覚室 多数の聴講お待ちします 演題「王賜銘の鉄剣と古代の東国について」（教育委員会共催） 講師 国立歴史民俗博物館 教授 白石太一郎 先生		
屋形船印旛沼周遊	9月19日(月) 定員25名 京成酒々井駅 A.M 10:00 集合 A.M 11:00 乗船 ◎申し込み受付 9月10日(土) A.M 10:00 中央公民館ロビー（会費 ¥2.500円） ◎キャンセルは実施日3日前まで 会田香雄宅 ―雨天中止―		
歴代町長の墓参	① 8月10日(水)－清光寺・勝蔵院墓地・酒々井薬師堂墓地・妙(亂)寺・経(亂)寺 ② 9月13日(火)－墨中之尾余・東光寺・馬橋馬場墓地・墨三林墓地・下台熊野墓地 ③ 10月予定 ― 中川新屋畑墓地・伊篠石堂墓地・柏木風花墓地・上岩橋大崎墓地 （小雨決行） ◎ お供えのお花、線香は会の方で用意します。 A.M 9:30 中央公民館に集合して下さい		

県内見学案内

7/20 7/22

◎小見川善光寺（真言宗）
小見川出身の歌舞伎役者、初代松本幸四郎の墓がある。県指定の史跡。

◎佐藤尚中（しょうちゅう）生誕地
小見川内浜公園内にあり、順天堂の後継者、佐藤尚中の誕生の地で、県指定の史跡。

◎東庄県民（とうしょうけんみん）の森
東庄町の南端の自然林の中に設けられた憩いの場。中に湿地植物園、水鳥観察舎、芝生広場、テニスコート等ある。

◎福聚寺（ふくじゅじ）
黄檗（おうばく）宗の寺で、十七世紀末に、幕府に働きかけて、椿の海の干拓という大事業を成功に導いた僧、鉄牛が、晩年退隠して余生を送ったという寺。

◎竜福寺（真言宗）
岩井木動竜福寺、弘法大師が東国を教化して歩いたとき、不動明王像を彫刻して安置したのが起こりという。現在の本堂は、寛政六年（一七九四）に再建されたもの。本堂の裏手にある洞窟などすが東総一の幽すいの地をうかがわせる。

◎山倉大神
弘仁二年（八一一）高皇産霊・建早須佐之男・大物主の三大神をまつったのが始まりと伝えられる。

◎大六天（観福寺）
山倉大神の別当であったが明治になり分離、県指定文化財の阿弥陀如来と両脇侍菩薩の三体があり、正応三年（一二九〇）鋳造とある。天台宗で大六天の名で知られている。

必見！

「ふるさとを知ろう
－郷土研究会－」

◎ 9月5日　再放送 9月11日
◎ 千葉テレビ

12年にわたる酒々井町郷土研究会の活動が認められ、県広報映画になりました。
お楽しみに！

会計報告

4/20 山菜を食べる会

収入	500円×61	＝30.500円
支出	材料費代	32.516円
	積立金より2.016円補足	－2.016円

4/22(A) 4/26(B) 千葉・市原方面見学会

収入	1800×66	＝118.800円
支出	昼食代1500×68	＝102.000円
	花代	4.000円
	バス代8000×2	＝16.000円
	下見代	5.500円
		計127.500円

差額 ¥8.700円を積立金より補足

編集後記

梅雨あけも間近、あじさいの花色移りゆく中、第四九号の会報をお届けいたします。今号も皆様の御協力で力作ぞろいになりました。

会員の皆様の親ぼくと交流をモットーに、明るく楽しい紙面づくりを心がけてまいりましたが、編集子達も四年生。そろそろマンネリ化に気をつけねばと体は老いても気は若く、初心に帰ってがんばってまいります。

皆様の御意見、御投稿を首を長くしてお待ちしております。

歴代町長墓参資料

郷土研 63年度

代	氏名	就任	退職	死亡	戒名	墓地
初	宗島新五郎	明二二、五	明二四、五			
四		明二七、八	明三八、二			
七	石渡勘右衛門	明三一、一	明五五、五			
一〇	飯沼喜一郎	明三七、九	明三八、九			
一八	高崎孝吉	大一二、一三	大一五、一〇			
二五	古川正	昭一九、二	昭二一、二			
八	坪和登	明三三、五、八	明三六、五、七			
一二	岡田新吉	明二六、一三	明三七、八			
三		明三九、二	明四三、二			
九	吉岡市太郎	明三六、六	明三七、四			
一一	相京倉之助	明三八、一〇	明三九、一〇			
一四	木村伊助	大二、三	大三、九			
二二 二三	松本三郎	昭一〇、二 〃一四、一三	昭一四、二 〃一七、一三			
二	菊吉五郎	明二五、一	明二六、一〇			
五	鶴岡道平	明二八、四	明三九、二			
六	若林民助	明二九、五	明三一、二			
一三	菊半蔵	明四三、一二	大二、二			
一五		大三、一〇	大七、一〇			
一六		大七、一二	大八、六			
一七 一九	菊芳太郎	大八、一〇 大一五、二	昭大一三、一〇 昭五、六			
二〇	菊義三郎	昭五、七	昭九、七			
二一		昭九、七	昭一〇、九			
二四	木内栄策	昭一八、一	昭一九、一			
二九		昭二九、五	昭三二、六			
二七	高橋観英	昭二四、一	昭二五、四			
三〇	菊文雄	昭三五、七	昭三六、七			
三一		昭三八、七	昭三八、一二			
二六	加瀬左武郎	昭二二、四、五	昭二五、一二、二二			
二八	桜井小三郎	昭宣、五、一三	昭二九、五、三			